

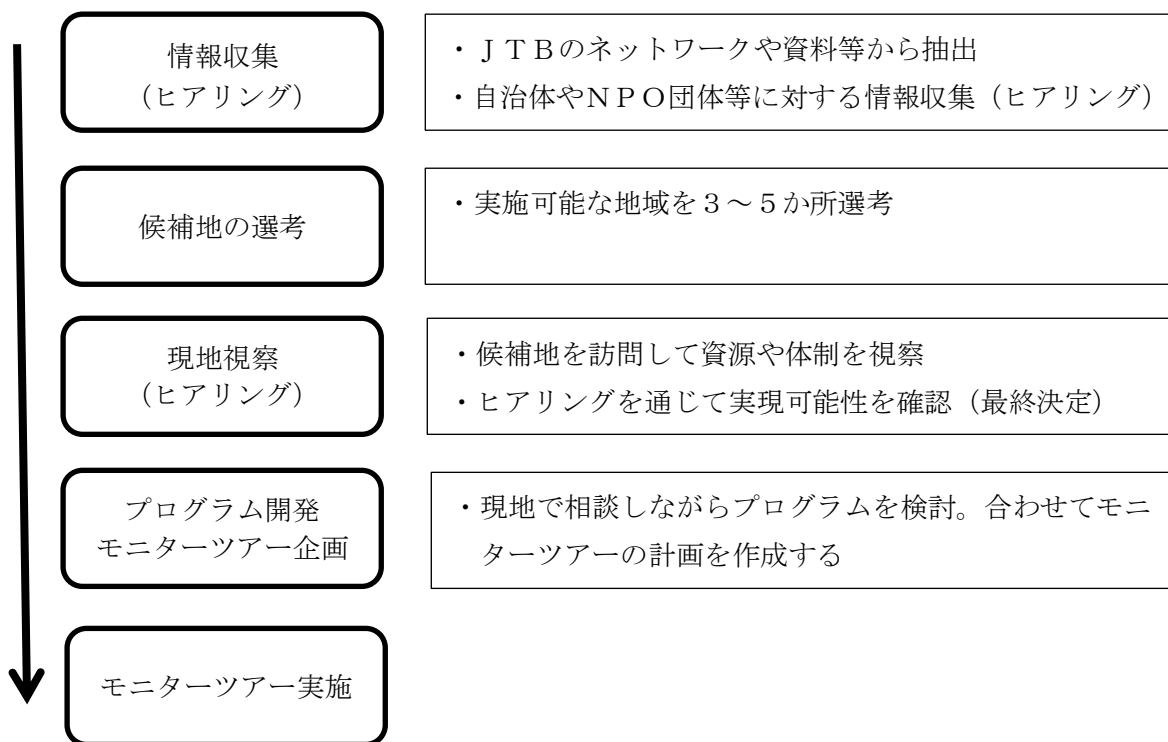
## **第3章**

### **相互交流を促進するための方策の検討**

# 第1節 モデルプログラムの開発とモニターツアーの実施

## 1. 開発及び実施に向けた準備活動

JTBのネットワークや文献等の情報収集を行いモデルプログラムの開発及びモニターツアーの実施地域の検討を行った。事前準備の活動フローは次の通り。



候補地の検討にあたっては以下のような点に留意した。

- 1) 地域にやる気があり、関係者間の意思の疎通や連携体制ができていること
- 2) エリアや地域資源に違いがあること (多様なプログラム開発)
- 3) 観光業者が主役ではなく、農山漁村に居住する住民やコミュニティが主導していること
- 4) モニターツアーの実施をにらんで、首都圏の企業が参加で見る立地であること
- 5) モニターツアー後の本格実施を前提に、交流会等の開催ができること

以上のような準備活動を行った結果、平成25年度業務では次の3地域でモデルプログラムの開発とモニターツアーを実施することにした。

- ①福島県昭和村
- ②山形県川西町
- ③千葉県館山市

## 2. モデルプログラムの開発

準備活動において選考した3地域に関して、実際に現地を訪問して、それぞれが有する交流資源や受入環境を視察・確認を行い、さらに自治体や受入地区の関係者等に話を聞きながら、モデルプログラムの開発を行った。

〈モデルプログラムの開発にあたってのチェックリスト〉

項目		チェックポイント
地域資源	①自然・景観	・ 訪れる人にぜひ見せたい・体験してもらいたい自然や景観はあるか
	②農林漁業体験	・ 時期や季節ごとに体験可能な農林漁業体験の確認
		・ 他地域にはない、独自の体験プログラムはあるか
	③地域産業	・ 農林漁業の加工品など、地域産業の見学・体験は可能か
	④食・食文化	・ 他地域に負けない、自慢の食材や産品はあるか
・ 地元の人たちが愛する郷土の味、郷土料理は何か		
・ 訪れた人に食べてもらいたい、食べさせたい産品は何か		
⑤文化・伝統・行事	・ 他地域にはない独自性の高い歴史や文化はどのようなものか	
	・ 訪れた人に見せたい伝統芸能や行事・風習はあるか	
	・ 地域が盛り上がる祭りやイベント(催事)の確認	
交流施設	①観光施設	・ 著明な名所旧姓や観光施設(公園等)はあるか
		・ 直売所や未知の駅など、地域産品が購入できる施設はあるか
	②宿泊・滞在空間	・ 農家民宿や漁家民宿、民泊など地域の人とふれあえる宿泊は可能か
		・ ある程度まとまった集団(30人程度)が宿泊できる施設はあるか
		・ 温泉やリラクゼーション施設はあるか
	③交流施設	・ 集団でのセミナーや研修活動等に利用できる施設はあるか
・ スポーツやレクリエーション等に利用できる施設はあるか		
・ 地元の人たちとの交流会が実施できる施設はあるか		
受入体制	①受入組織	・ 受入のための体制や組織は確立されているか
		・ 受入に対する住民の意識や参加意向は形成されているか
		・ 自治体や関係団体との連携は確立されているか

今回モデルプログラムの開発を行った3地域では、それぞれの資源や特色などをふまえ、次のようなプログラムを開発し、それらを盛り込んだモニターツアーを実施することにした。

〈候補地における主なプログラム〉

地域	モニターツアーに盛り込むモデルプログラム
福島県昭和村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィールドワーク(村内散策と地元学講座)の実施</li> <li>・ 温泉入浴</li> <li>・ 農家への民泊と農作業体験</li> <li>・ 郷土料理づくりとそば打ち体験</li> <li>・ 夕食交流会</li> </ul>
山形県川西市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川西町で行っているイベント「生活者大学校」への参加(連携)</li> <li>・ 夕食交流会</li> <li>・ 農家への民泊</li> <li>・ 体験プログラム(芽の収穫、野菜の収穫、雪囲いづくり等)</li> <li>・ 郷土料理づくりとそば打ち体験</li> </ul>
千葉県館山市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィールドワーク(市内散策と地元学講座)</li> <li>・ 農家への民泊と郷土料理づくり</li> <li>・ 農家での農作業体験</li> <li>・ 郷土づくり体験(太巻き寿司)</li> <li>・ 夕食交流会</li> <li>・ 市内の各種交流施設の紹介ツアー</li> </ul>

#### 【モニターツアーの参加者募集活動について】

モニターツアーの実施にあたっては次のような方法で募集活動を行った。

- 1) JTBコーポレートセールス社員による企業への案内と参加呼びかけ  
(人事部や総務部など、研修やCSR担当部署を中心に訪問)
- 2) 8月に実施した全国セミナーの参加者(企業・団体・地域)への案内と参加呼びかけ
- 3) ツアー実施地域による周辺の自治体や関係団体等への案相と参加呼びかけ

### 3. モニターツアーの実施

#### (1) 福島県昭和村でのモニターツアーの実施

##### ① ツアーの実施概要

(実施概要)

平成25年11月11日(月)～13日(水) 2泊3日

(参加者)

男性8人 女性2人 (計10人)

性・年代	居住地	職業
①女性・30代	東京	企業人事部
②男性・40代	東京	企業CSR推進部
③男性・30代	福島県会津若松市	NGO
④女性・30代	福島県田村市	企業
⑤男性・30代	福島県会津若松市	行政職員
⑥男性・40代	福島県会津若松市	行政職員
⑦男性・20代	福島県三島町	地域活性化活動団体
⑧男性・30代	福島県三島町	観光協会職員
⑨男性・30代	福島県西会津町	行政職員
⑩男性・不明	福島県三島町	地域リーダー(区長)

(日程)

11月11日(1日目)	・移動(集合) ・入村式&フィールドワーク(村内散策) ・民宿に宿泊
11月12日(2日目)	・農作業体験 ・郷土料理作り ・温泉入浴 ・夕食交流会 ・古民家に宿泊
11月13日(3日目)	・フィールドワーク ・意見交換会 ・移動(帰路)



## ②ツアーの行程

### 第1日目（11月11日(月)）

#### ◆集合（10：50） JR 新白河駅

- ・ 東京からの参加者は東京発9：16—新白河着10：46の新幹線を利用。
- ・ 新白河駅で県内からの参加者と合流し、送迎車で昭和村へ向かう。

#### ◆昼食（12：00） 郷土食伝承館 芋麻庵

- ・ 「ばんでい餅」をはじめ、昭和村の食材を使った古くから伝承されてきた郷土料理を味わう。

#### ◆入村式（13：30）

- ・ 昼食後に入村式を実施。昭和村村長の歓迎の挨拶のあと、参加者の自己紹介。その後、3日間の予定をオリエンテーションした。

#### ◆昭和村 里のフィールドワーク（14：00～16：00）

- ・ 渡辺稔雄氏をガイド役に、昭和村の歴史や風土、産業や特色等をレクチャー。
- ・ レクチャーの後、村内を散策し風景を楽しむとともに、直売所や工芸博物館等の施設を訪問。
- ・ 公民館や研修室など、企業が研修の場として利用できる施設も紹介。



#### ◆玉梨温泉に入浴（16：30～18：00）

- ・ 昭和村に隣接する金山町に移動し、日本の原風景ともいえるべき山里に立地する玉梨温泉で入浴・休憩を行った。

#### ◆昭和村の農家への民泊（18：30～）

- ・ 昭和村に戻って、地元の農家に民泊。地元食材を使った手料理ときめ細かなおもてなしに、会話もはずみました。



## 第2日目（11月12日(火)）

### ◆農作業体験（午前中）

- ・朝食後、宿泊した農家で農作業をお手伝い。（農作業体験）
- ・行ったのは「しいたけの収穫」と「畑の除草や収穫体験」。
- ・農作業の後は農家のみなさんと一緒に昼食を食べる。

### ◆郷土料理づくり体験（13：30～16：00）

- ・しらかば荘に移動し、地元の女性グループのみなさんと一緒に昭和村の食材をふんだんに使った郷土料理づくりにチャレンジ。
- ・なめこなどの山の幸、大根などの里の幸を使って次々に料理ができていく。また、会津伝統のそば打ち体験も行った。

（ばんでい餅、ザク汁、凍み大根、つと豆腐など）



### ◆温泉入浴（16：30～18：00）

- ・しらかば荘内にある温泉（入浴施設）に入浴。交流会に向けて英気を養う。

### ◆夕食交流会（18：00～）

- ・温泉入浴後に、地元のみなさん（行政関係者、農家のみなさん、地域起こし活動の関係者等）と交流会を開催。
- ・自分たちの作ったそばや料理を味わいながら、「農都交流」や「地域活性化」「昭和村や奥会津の文化」などについて語り合った。

### ◆宿泊

- ・築180年の古民家をリニューアルした農家民宿に宿泊。



### 第3日目（11月13日(水)）

#### ◆昭和村 山のフィールドワーク（午前中）

- ・ 民宿での朝食後、公民館に移動して山の案内人猪股良雄氏から、昭和村の山の暮らしについて話を聞く。（昭和村は周囲を山で囲まれた山村）
- ・ レクチャー後に近くの里山を散策し、山の植物や生き物、ライフスタイル等の話を聞く。

#### ◆意見交換会（11：30～）

- ・ 公民館に戻って、昭和村や近隣の行政職員などを交えて意見交換。農都交流の可能性や要望などを話し合う。
- ・ 合わせてモニターツアー参加者にアンケートを実施した。

#### ◆昼食

- ・ 会津名物の「ソースカツ丼」をみんなで食べる。昼食後は適宜、特産物の買い物なども行った。

#### ◆解散（15：00～）

- ・ JR 新白河駅で解散。  
（東京からの参加者は15：19分の新幹線を利用。東京着16：49）
- ・ 合わせてモニターツアー参加者にアンケートを実施した。





### ③ ツアー参加者へのアンケート調査結果（回答者6人）

質問 1. 今回のモニターツアーで印象に残ったこととその理由

回答者	印象に残ったこと	その理由
東京在住 会社社員 女性	様々な方が連携して地域を活性化させようと検討している姿	危機意識と支え合うという元々地域がもっている風土が、様々な役割や組織間と連携をとる活動につながっているのかなと思い、うらやましかったため。
	山散策での案内人の話(仕事感や生き方)	自然のサイクルに根ざした生き方や仕事の仕方を学べ、人が持続的に生活を営んでいくうえで企業が考えなければならない価値観を学べた気がしたため。
	椎茸収穫体験の際に農家の人が語った食べ物に対する考え方	農作物は買うもの、安ければいい、という価値観の世代を親に持ついまの30代は、自分たちの代で考え方を改めないといけないという意識に共感したため。 またセシウムの問題に対する消費者の無知の話があり、自分自身もセシウムの問題に限らず、食の安全に関してもっと関心をもたなければという気づきがあったため。
東京在住 団体職員 男性	農作業体験と農家昼飯(及びフィールドワーク)	普段できない農作業(草取り、片付け)と土の匂いに純粋に感動。農家の方との昼食で彼らの日常に触れたこと。
	郷土料理作り そば打ち	地元料理作りの協働作業の非日常性。新しい発見もあった。名人(実は農家)の多芸性に感心。
	交流会	多様な価値観の出会い
福島在住 NPO団体職員 女性	フィールドワーク	学術的な説明ではなくとも、猪俣さんの人生経験から語る猪俣さんの言葉に感動した。また自然からの恵みで生活をし、自然にお返しする気持ちで山の手入れをしていた。自然と人間が“結い”の関係であったというお話から、お金の存在とは…? 考えさせられた。
	民宿に泊まる	民宿は、宿主さんとの距離が近いこともあり、自分たちの為に大変な思いをさせては申し訳ないという気持ちと、泊めていただくことの有難さと感謝の気持ちがわいてきた。
	郷土料理づくり	野菜の切り方を尋ねたが、「どんな切り方でもそれがいいんだよ」と言ってくれた言葉は、全てを受け入れて下さっていると感じた。お母さん方の心の広さに人のぬくもりと安心を感じ、ひとの心を温められる料理を作りたいと思える時間だった。
東京在住 会社社員 女性	農作業と農家での昼食(2日目)	少しでもお役に立てる作業ができたことと、農家のお母さんの手料理がとてもおいしかった。
	意見交換会(3日目)	NPO、役場、企業(モニター)が意見を交換できて有意義だった。みんな同じ想いで、これからも継続させたいと感じた。
	フィールドワーク(1日目)	村の歴史が興味深かった。
福島在住 NPO団体職員 女性	フィールドワーク(3日目)	自然は全て循環して共存していることを改めて感じた。調和のサイクルから逸脱してしまった人間がどうしたら戻ることができるのか。一人でも多くの方に案内人の話を聞いて欲しいと思った。
	郷土料理作りとそば打ち	食は生きることの基本。一緒に作ったものを一緒に食べるというプログラムは、一体感を育む手段としてとても有効だと感じた。また、古くから地域に残っている食べ物や調理方法は、その土地で生きる人に合ったものなのだと思う。日本の伝統食の作り方を学ぶことができて良かった。
	交流会(地元のみなさんの笑顔)	交流会で地元の人から「おもてなしをしているという意識が無い」という言葉を聞き、作為の無いおもてなしは受け取る側にも負担が無く、お互いに自然体で接することができ、真の心の交流が生まれることを知った。
福島在住 NPO団体職員 男性	民宿での食事とご主人(ご家族)との交流	何よりも、昭和村の食の豊かさに魅了された。また、心温かいご家族から昭和村のさまざまな話を聞くことができ、非常に貴重な時間を過ごすことができた。
	からむし織の里見学	昭和村の基幹産業である(あった)からむし織の、成り立ちから具体的な手順まで、非常に分かりやすく理解できた。

質問 2. 都市部の企業・団体等が昭和村のような農山漁村で研修等を行い、自然・農産漁村生活体験や地域の人たちとの交流経験を行うことについての意見

①とても良いことなので積極的に進めるべきだ 4人

②良いことなのでそういう機会が増えるとよい 2人

(主な意見)

- ・ 自然の原風景が残る昭和村のような場所にくると、普段の事業活動が自然に対してどんな影響を与える可能性があるか、考え直すきっかけになる。
- ・ 心の癒し効果、多様な価値観の気づき、農作業を通じた労働の価値体得。
- ・ 企業(都)ー地元(農)が win-win で、継続できるプログラムをつくっていただきたい。
- ・ 昭和村の持つ価値は、現在の都市住民にとっては羨望的である。社会課題を解決する有効な手法として、このような交流の継続を強く推したい。

質問 3. 都市部の企業・団体が組織ぐるみで農産漁村体験・地域との交流や、グリーン・ツーリズムを行うことの効果や良い点・意義・についての考えや意見

回答者	考え方・意見
東京在住 団体職員・男性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共同体験を通じた仲間意識醸成。</li> <li>・ 継続して行うことで企業体の第二のふる里創造。</li> </ul>
福島在住 NPO職員・女性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業や団体のネットワークを使い、広範な広報活動が期待できる。</li> <li>・ 同一組織に属する方々が集団で同じ体験をして考えを共有すると、個人で動くときよりも大きな力となり、その後の展開が早いのではないかと思う。</li> </ul>
福島在住 NPO職員・男性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織としてある程度の強制力をもって、参加者を動員することで(例えば研修や社員旅行等)、農山村に興味を持たなかった層を、巻き込んだ形で事業展開することが可能になる。</li> <li>・ 組織が介入することで、農村の問題や価値に無関心だった層に、新たな価値を見出してもらう機会をより多く提供できるようになる。</li> </ul>

質問 4. 都市部の企業・団体が「農都交流」を行う上での課題と、交流を促すための方法やアイデア

◆課題

- ・ 農村の「表面」だけを見る観光ツアーにならないように工夫が必要。
- ・ 何を学ばせるかというテーマ設定
- ・ 農村での活動と、研修の目的を、うまくリンクさせる工夫(理由付け)。
- ・ 企業や団体内(特に上層部)の理解。
- ・ 効果測定
- ・ 受入側とのミスマッチ(双方の期待にズレが生じないように)。
- ・ 都⇒農の一方通行にならずに、反対向きの交流の検討が必要。
- ・ 研修にさける日数が限られている(できれば1泊2日が良い。1週間はむずかしい)。
- ・ 時間創出
- ・ 全てに関わる費用はどれくらいか。
- ・ 参加費や、経費がどれくらいかかるかが気になり。
- ・ 農家との接点がない

◆交流を促すための提案やアイデア

- ・ 研修、福利厚生的一面からスタートさせ、「人とのふれ合い効果」のメンタルヘルス策として提案することで、企業の事業計画に最初から組み入れる。
- ・ チームビルディングや人材育成等の場として設定するには、農家と企業の仕事の仕方で共通する部分と異なる部分を分け、より詳細にテーマ設定とプログラム設定をする必要があるように感じる。そのため、人事研修というよりはCSR活動や組織活動のテーマの方が進めやすいと思う。
- ・ 1泊2日でも意義を感じられるプログラム
- ・ 受け入れ農家を増やすための説明会
- ・ 企業や団体の事業内容と関連した交流プログラムを提案する。  
(例:登山・ウィンタースポーツ関係→山林整備のボランティア、山里歩きツアー、花屋さん→花畑での作業体験等)
- ・ 地元出身者のいる企業・団体へ、農都交流を提案する。
- ・ 企業・団体の研修担当者および上層部を対象にした、今回のようなモニターツアー
- ・ 交流のみでなく、通常の研修を「農村」で実施できるように受け入れる態勢作り(1-2週間程度)。
- ・ 滞在中、都市と農村の若者同士が、とくに参加して協力して何かを作り上げるような仕掛け(祭り、討論会、婚活パーティー)
- ・ 都市側の団体が農村で聞き取り調査をして、「まちおこし」アイデアを村長に提言するような一連の流れを、研修として構成する。

質問 5. 企業・団体等が昭和村のような農山村地域で適する活動についての考えや意見

回答者	適する活動等	内容・理由
東京在住 会社社員 女性	リーダー、経営幹部研修	農家の方々から、農業の大切さや今後の課題を聞き、実際に農作業を体験し、地域に対して自社ができることを幹部研修生が考えるような研修(今年まで、石巻の住民の方とともに次の地域モデルを考えるという幹部研修を実施していた)。
	会社組織員活動	社会問題に対する関心を高める活動。自然と共生する生き方や食の安全について、実際の農作業や農家との交流を通じて学ぶ。
東京在住 団体職員 男性	新入社員研修、若手育成研修	汗をかく農作業による共同体験の感動を味わう研修。また世代の違いによる価値観の気づき
	顧客サービスツアー (CSR活動の一環)	農山村生活体験による新ツアー構築
	援農隊などのボランティアツアー	社会貢献に寄与する取組
東京在住 会社社員 女性	部署内のチームビルディング合宿	力を合わせた農作業や寝起きを共にし、関係を深める
	CSR活動(利他活動)	農作業のお手伝いを通じて、利他を学ぶ。「ありがとう」と言われる原体験をする
福島在住 NPO団体職員 男性	チームビルディング	共同作業による収穫体験、自炊宿における共同生活、登山
	人材育成	村全体を研修会場として活用。自然豊かで、平穏な環境において、団体内の年次研修などを実施。
	こどものキャンプ事業	放射線量が比較的高い中通地区に住む子どもたちを、昭和村に連れてきて、豊かな自然環境の中で、キャンプおよび農作業体験。

#### ④ ツアーを受け入れた地域住民へのアンケート調査結果

##### 質問 1. 今回のモニターツアーへの協力・関与状況

回答者	モニターツアーへの協力・関与内容
フィールドワーク案内(里)	・昭和村の概要や課題、郷土料理や地域文化などの説明。 ・交流会への参加
農業	・食事の提供
農業	・郷土食づくり ・交流会への参加
古民家ゲストハウス経営	・宿泊場所(古民家)の提供 ・交流会の参加
民泊受入(松屋)	・民泊受入 ・農作業体験の受入(ナメコ採りなど)
農業	・農作業の作業手順指導 ・交流会の参加
役場職員	・農作業の指導 ・交流会参加
フィールドワーク案内(山)	・里山の案内(山時と住民との関係を解説)

##### 質問 2. モニターツアーで他地域の人を受け入れた感想

###### ① 事前準備についての感想

- ・それほど大変ではなかった 5人
- ・何とも言えない 1人
- ・特に事前準備はしていない 1人
- ・無回答 1人

###### ② 実際の受け入れ時の感想

- ・それほど大変ではなかった 4人
- ・何とも言えない 2人
- ・無回答 2人

###### ③ 交流会の感想

- ・とても楽しかった 5人
- ・まあ楽しかった 2人
- ・無回答 1人

###### ④ 今後の受入活動への参加意向

- ・ぜひ参加したい 5人
- ・参加してもよい 2人
- ・何とも言えない 1人

###### ⑤ モニターツアーの受入で印象に残っている点や楽しかったこと

- ・ 伝統的生活などの説明に対し、積極的に質問してくることから、昭和村(農山村)への関心の高さが伺われ、今後の農都交流に手応を感じたこと。
- ・ 年齢の差。
- ・ 参加者が大人なので積極的に体験しようと楽しんでいるようで、よかったと思う。
- ・ 一緒に食事づくりをしたことでうちとけたこと。
- ・ お客さんたちが「やってみたい」と言って率先して手伝ってくれたこと。(神棚にお水を供える、食事の手伝いなど)
- ・ 交流会では普段会うことのない村内外の人と会えたこと。
- ・ いろいろな企業の方々がいらっしやっただことで、色々な情報が聞けて、良かった。
- ・ 若者の力で短時間で作業してもらった。
- ・ 交流の中で若い者の考え方がしっかりしている事。
- ・ 次回の体験交流を楽しみにしている。
- ・ 外からの視点で昭和村を見ていただけたことが良い点。
- ・ 参加の皆様が熱心に話を聞いてくれた事。

⑥昭和村が都会の企業などと交流・連携をすすめるための「課題」や「問題」

- ・ 高齢化などにより受入体制を整えるのが難しい。受入体制(分野ごとのグループ化)が整えば受入は容易になる。
- ・ 宿泊施設の問題、農家民泊ができれば村の生活が理解でき、交流が深まる。
- ・ 目的に沿った受入対応をするには、都会の企業の目的を明確にする(理解する)必要がある。
- ・ 交流は出来ても、連携をうまく続けていく事。
- ・ 大所帯(団体)を年に何回も受け入れる許容量が地元の人にどれだけあるか。
- ・ 受け入れ窓口となる組織にどれだけを中心になってくれる地元の人を巻き込めるか。
- ・ 農家民泊を「やりたい」という家族をどれだけ増やせるか、又は増えない原因をどれだけ解消できるか。
- ・ 交流や受入に関する活動に主体的に取り組める人材が確保できるか。
- ・ 農家が主なので、農体験を受け入れることを多くの村民に知ってもらう事が必要。
- ・ 都会の企業と村の企業との交流を深め、話し合いの場を作る。
- ・ 企業と受入先をコーディネートする組織の育成と運営。

質問 3. 都会の企業や大学が昭和村のような農山村を訪れて交流することに対する考え方

①とても良いことなので積極的に進めるべきだ 5人

②良いことなのでそういう機会が増えるとよい 3人

(主な意見)

- ・ 都市と地方の違いを参加者に理解して頂くことが必要と考えている。地方出身者(田舎をもつ者)の二世が中心となっている都市社会では、あらゆる面において地方を理解することができなくなりつつある。
- ・ 農山村体験は癒しの場であり、やすらぎの場でもあるだろうが、活力を培う場にもなる。農山村、都市部の企業の双方に大きなメリットがあると考えます。
- ・ 外部の人と交流する事で、じいちゃん、ばあちゃんが元気になれる。
- ・ 普段話さない昔の生活や体験等を話すきっかけになり、価値観が変わったり、再確認する事もある。
- ・ 同じ会社や団体の人が毎年安定してきてくれることにより、農家さんとも交流が深まり、農作業体験の内容もきめやすく、お願いしやすくなる。ただ、地元の人々の生活リズムが崩れてしまうと、魅力の半減にもつながってしまうので、機会は多すぎない方がいい。
- ・ 都市部の企業、団体との交流を通じ、農作業体験をしたり、野菜等も買ってもらったり、農地を利用してもらったりして、地域生活に活気が出る。
- ・ 都市部の若い力をかり、交流を深め農村の生活や農作業の体験をしながら永住につなげたい。

質問 4. 都市部の企業等との交流活動の良い点、悪い点

良い点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田舎の暮らしに目が向けられることで、地元民に活気が湧いてくる可能性がある。</li> <li>・ 父ちゃんが元気になる</li> <li>・ 家庭や村に新鮮な空気が入ってくる。</li> <li>・ 会社等、特定された団体の人が泊まりに来るので安心(不特定だと心配)。</li> <li>・ 昭和村のいいところを発見してもらえる。</li> <li>・ 若者の話は自分達の考えとは異なり、これからの生活や作業に取り入れたい。</li> <li>・ 交流によって、相互の活性化が出来る。</li> <li>・ 農村の営みの価値が再確認でき、誇りを持つことができる。</li> <li>・ 山間部の事を知ってもらう機会を持てる。</li> </ul>
悪い点 (改善点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農作業が忙しい時期は受け入れるのは大変。</li> <li>・ 初心者向けに作業をとっておく必要がある。</li> <li>・ 法事や葬式が入った時に直前でキャンセルしにくい。</li> <li>・ 過度・無理な受入が心配(身の丈に合った取組)。</li> </ul>

## ⑤ ツアー関連資料

### 1) 参加者への案内状

#### 農都交流プロジェクト

#### 「奥会津昭和村モニタープログラム」参加案内書

##### ■実施期間

2013年11月11日（月）～13日（水）3日間

※詳しい行程については、別添のスケジュール表をご参照ください

##### ■集合（解散）の案内

###### <集合>

2013年11月11日（月）

東京駅 9時16分発 東北新幹線やまびこ 207号（仙台行）

※JRきっぷは、別途お送りします。きっぷに記載された新幹線の座席に直接ご集合ください

※遅れる場合は、下記にご連絡ください

当日緊急連絡先：苧麻倶楽部 飯田 080-4847-5262

###### <解散>

2013年11月13日（水）

東京駅 16時44分着 東北新幹線なすの 276号（新白河から乗車）

※到着次第解散となります

##### ■参加費用

無料（交通費（東京駅～昭和村）、宿泊代、食事代、交流会費、体験料）

##### ■宿泊先：下記のいずれかの施設にご宿泊いただきます

###### <1日目>

「民宿 松屋」

福島県大沼郡昭和村両原字天狗屋敷 537

0241-57-2284

「古民家ゲストハウス とある宿」

福島県大沼郡昭和村小中津川宮原 1044

0241-57-3131

###### <2日目>

「田舎暮らし体験住宅」

福島県大沼郡昭和村喰丸三島 974-1

0241-57-3870

「ムラキャンハウス」

福島県大沼郡昭和村野尻字元町 4493

電話なし

※初日・2日目ともに、どの宿泊施設に泊まるかは現地にてご案内します

## ■持ち物

洗面用具（シャンプー・リンス、歯ブラシなど）、タオル、着替え、寝間着（ジャージなどでOK）、  
農作業時の服（屋外での農作業用）、帽子、運動靴、防寒具

※農作業時に必要な長靴・軍手はこちらで用意します。

※2日目の宿泊施設は、地元地域おこし団体の管理の簡易宿泊施設です。

洗面用具やタオル、寝間着等のアメニティはございませんので、各自ご用意ください。

## ■食事について

初日の昼食も昭和村で準備します。（お弁当等の準備の必要はありません）

2日目午後は地元お母さんたちとの郷土料理作りとなります

## ■その他

宅急便等で荷物を現地に送る場合、以下の宛先へお願いします

送付先：NPO 法人 苧麻倶楽部

〒968-0103 福島県大沼郡昭和村下中津川字中島 652

TEL：0241-57-2240

※11月11日（月）午前必着で送ってください

※お送りになる際は事前に上記送付先へその旨をお電話してください

## ■運営体制（平成25年度農林水産省都市農村共生・対流総合対策事業）

企画運営：昭和村農都交流推進事務局（NPO 法人 苧麻倶楽部内）

運営協力：JTB コーポレートセールス、福島県会津地方振興局

昭和村役場、株式会社奥会津昭和村振興公社

## ■現地緊急連絡先（実施当日）

飯田（NPO 法人 苧麻倶楽部 担当スタッフ）：080-4847-5262

## ■問い合わせ先

昭和村農都交流推進事務局（NPO 法人 苧麻倶楽部内）

Tel & Fax：0241-57-2240

Mail：info@chomaclub.jp

担当：尾崎、飯田

## 2) 詳細行程表

日次	月日(曜)	地名	時間	交通機関	スケジュール
1	2013年 11月11日 (月)	東京発 新白河着  奥会津昭和村	09:16 10:46  昼  午後   夕刻	新幹線 送迎車	着後：送迎車で奥会津昭和村へ  ○昼食「郷土食膳」 会場：郷土食伝承館 芋麻庵 ・ポイント：ばんでい餅をはじめとした昭和村ならではの料理が味わえます  ○「入村式」  ○昭和村のフィールドワーク（地元学講座） ・地元ガイド 渡辺稔雄氏の案内で、昭和村を見て歩きます ・ポイント：里山の暮らしや自然、講などの今なお残る風習について気づき、学びます。 また、研修の場として活用できる施設見学も行います（工芸博物館、研修室など）  ○玉梨温泉（金山町）入浴  ○昭和村の農家に宿泊 ・ポイント：地元農家に宿泊。家の人たちと一夜を共に過ごし、相互の交流を深めていただきます  〈昭和村・民宿宿泊〉
	11月12日 (火)	奥会津昭和村	午前  昼  午後  夕刻		○宿泊した農家で農作業 ・白菜または大根とシイタケの収穫を予定  ○地元農家の方と一緒に農作業 ・農家やモニター参加者全員で協力し合いながら取り組みます  ○昼食：午前中にお世話になった農家とともに昼食を食べます。  ○郷土料理作り ・ポイント：地元の女性グループと一緒に郷土料理を作ったり、そば打ち名人からそばの打ち方を習ったりします  ○昭和温泉入浴  ○地元の皆さん（農家、地域おこし関係者、近隣の市町村職員など）をまじえた夕食交流会 ・会場：しらかば会館 メニュー：手打ちそばなど  〈昭和村・地域おこし団体管理の古民家宿泊〉
	11月13日 (水)	奥会津昭和村  昭和村発 新白河発 東京着	午前  昼   15:19 16:44	送迎車   新幹線	○フィールドワーク（案内人 猪股良雄氏による山歩き講座） ・ポイント：山とともに生きてきた名人の案内で村の人たちが山の恵みをどのように利用してきたかを学びます  ○意見交換会 ・近隣の市町村職員を交えて、今回のモニターツアーを振り返ります  ○昼食「ソースカツ丼」 ・会津名物ソースカツ丼を味わいます  送迎車で新白河駅へ



## (2) 山形県川西町でのモニターツアーの実施

### ① ツアーの実施概要

#### (実施概要)

平成25年11月16日(土)～18日(月) 2泊3日

#### (参加者)

男性3人 女性2人 (計5人)

性・年代	居住地	職業
①男性・50代	神奈川	出版社勤務
②男性・50代	東京	元放送会社勤務
③男性・50代	愛知	元企業勤務。退職後は農業に従事
④女性・60代	神奈川	元企業勤務
⑤女性・60代	神奈川	元企業勤務

#### (参考)

今回のモニターツアーは川西町で毎年行われている「遅筆堂文庫・生活者大学校」と連携して実施した。その概要は以下の通り。

「遅筆堂文庫・生活者大学校」参加者人数 115名

参加者居住地域・・・東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、愛知県、京都府、大阪市、宮城県、福島県、山形県

#### (日程)

11月16日(1日目)	・移動(集合) ・地元イベント(生活者大学校)へ参加 ・地元宿泊施設に宿泊
11月17日(2日目)	・地元イベント(生活者大学校)へ参加 ・夕食交流会に参加 ・農家に宿泊(民泊)
11月18日(3日目)	・体験プログラム(野菜の収穫、茅の収穫等) ・そば打ち及び郷土料理づくり ・移動(帰路)



## ②ツアーの行程

### 第1日目（11月16日（土））

#### ◆集合（出迎え 12：30）

- ・従来の生活者大学校では、参加者が会場近くの羽前小松駅から会場まで案内なしの移動を行っていたが、今回のモニターツアーに合わせて、米沢駅から川西町をよく知る案内人「ダリヤの里かわにし案内人」を列車に同乗させ、川西町について案内をしながら会場までの道程を一緒に歩き、参加者と運営側の一体感の向上を図った。



#### ◆生活者大学校（13：00～17：00）

- ・13：00より開校式を行う（モニターツアー参加者も加わる）。その後、以下の2つの講座を行った。  
講座①千葉 悦子氏：原発事故前と原発事故後の飯館村の取り組みについて  
講座②山下 祐介氏：社会学者の目線でみた地域再生に向けたこれまでの道程について  
（モニター参加者も講座に参加し、講座の内容について聞き入っていた）



#### ◆全体交流会（18：00～19：30）

- ・「かわにしツーリズム」（地元のグループ）による田舎料理、郷土料理の提供による交流を実施。
- ・普段、都市部の方々には食べる機会のない地域の食材を使った料理を準備し、おもてなしをした。参加者の中には、川西町出身やその関係者が多いため、懐かしい味だと好評であった。

#### かわにしツーリズムによる『全体交流会提供料理』

- ◆黒澤 春子さん：あけびの肉詰め・わらびの一本漬け
- ◆遠藤 禮子さん：冷や汁
- ◆高橋 せつさん：ぜんまい煮・桜ごはん・瓜の粕漬け
- ◆佐々木 文代さん：わらび煮・菊のおろし和え

- ◆原田 加矢乃さん：おから煮
- ◆須藤 フミさん：さくらんぼゼリー
- ◆井上 龍藏さん：ウコギ茶



#### ◆宿泊

- ・川西町、飯豊町、長井市の温泉施設、ホテルに分宿。

## 第2日目（11月17日(日)）

### ◆朝食

- ・ 宿泊先で朝食を進め、生活者大学の会場（フレンドリープラザ）に移動。

### ◆フレンドリープラザにて写真展見学（9：00～10：30）

- ・ 生活者大学の一環として、井上ひさしの展示室を見学。
- ・ 飯館村の原発前の風景や人々の暮らしなどの写真展も見学した



### ◆生活者大学（2日め）への参加（9：30～15：00）

- ・ 農村環境改善センターに移動し、生活者大学に参加し、講義を聞く。  
講座③山下 惣一氏：農業者の視点から幅広い視野に思考を向けた講座内容



### ◆昼食提供

- ・ かわにしツーリズムによる豚汁の提供。



◆山形県立置賜農業高等学校の活動発表会（12：45～13：30）

- ・川西町特産の「紅大豆」を活用した商品開発を行っている「紅大豆本舗」の運営や、えき・まち活性化プロジェクトによる地域活性化に貢献している山形県立置賜農業高等学校の活動発表会を聞く。
- ・発表した研修会場は60名ほどの会議室スペースだったが、立ち見が出るほど大勢の参加者が集まり、若い高校生の活躍に、関心や励ましの言葉など、置農生の活動に今後も期待する声が多く寄せられた。



◆全体会（13：30～15：00）

- ・今回のテーマ「3.11後の福島から地域再生への道程を考える」について参加者や講師から様々な意見が寄せられ、今年度の生活者大学校が無事終了となった。
- ※ここで「生活者大学校」は閉講となり、参加者は解散の帰路についた。モニターツアー参加者は残ってツアーを継続した。

◆温泉入浴

- ・町内温泉施設「浴浴センターまどか」において入浴後、民泊や体験先でもある川西町玉庭地区に移動した。

◆地域住民との夕食交流会

- ・玉庭地区住民との交流や意見交換を図るため交流会を実施した。交流会では、都市と農村違いや農村に求めるもの、川西町の資源をどう活用したらよいかなど、都市部住民の視から意見をもらったり、お互いの情報交換などを行いながら交流を図った。
- ・また、交流会では、玉庭地区の方から、地元の食材を使った、いわなの塩焼き、もって菊のおひたし、かきのクルミ和え、青菜漬け、ぜんまい煮、新米コシヒカリと、つや姫のおにぎりなどを提供頂いた。



◆宿泊

- ・玉庭地区の農家に民泊（分かれて宿泊）。

### 第3日目（11月18日(月)）

#### ◆朝食・移動

- ・民泊先で朝食後、玉庭地区交流センターに集合。

#### ◆地域資源を活用した体験プログラムの実施（9：15～11：00）

- ・川西町の主産業たる農業や農家の暮らしを活用した体験プログラムを実施した。

《①農作業体験》 体験場所：川西町玉庭地区

講師：生田 敏一氏

大根、カブ、ヤーコンの収穫体験を実施。収穫作業は楽しいようであったが、冷たい水で野菜を洗う作業では、農業の大変さを実感しているようだった。



《②雪囲い体験》 体験場所：川西町玉庭地区

講師：生田 敏一氏

これから冬を迎えるにあたり農村では当たり前となっている雪囲いを体験プログラムとして実施。材木を立てる事や、固定する際のひもの結び方、しっかり木を守る囲い方や、ひもを解く際の手間を考えた結び方などの農村に暮らす住民の知恵にみなさん感心していた。



《③むくり鮎の加工所見学》

川西町玉庭地区では、冬場の貴重なタンパク源として米沢藩9代目藩主の上杉鷹山公が推奨したとされる鮎を養殖し、「むくり鮎」として加工し販売まで行う6次産業化を推進している。モニター参加者は加工所を見学し、廃校舎を活用した加工所で働く農家のおばあちゃんたちの意欲に関心を示していた。

◆そばづくり体験と昼食（11：15～13：00）

《そばづくり体験》 体験場所：玉庭地区交流センター

講 師：玉庭地区 高橋氏

玉庭地区の高橋さんにそばづくり体験の講師になっていただき、参加者と共にそばづくり体験を実施した。参加者のほとんどが初めてのそば打ちで、水まわしの際の水加減や、伸ばし方、切り方などなかなか上手くいかなかったようだが、昼食時に自分で打った蕎麦を食べ、おいしいと、満足していた。



◆アンケート記入と意見交換会（13：00～13：30）

- ・昼食後アンケートに記入するとともに、ツアーの感想などを述べる意見交換会を実施した。

◆送迎解散

- ・米沢駅まで送迎し見送り。（山形新幹線つばさ 144 号）

### ③ ツアー参加者へのアンケート調査結果（回答者 5 人）

#### ◆ モニターツアーアンケートの実施

2泊3日のモニターツアーを通し、参加者および受入側協力者にアンケートを実施した。

#### ◆ モニターツアーのアンケートについて

モニターツアーの内容について検証し、都市部企業・大学の研修受入れ等を目的とした、川西町農都交流事業を推進するための参考資料とするためアンケートを実施した。

- アンケート調査対象・・・モニターツアー参加者、玉庭地区関係者
- アンケート調査方法・・・モニターツアー体験後に配布し回収
- アンケート回収率・・・モニターツアー参加者 5名中5名 回答率 100%  
玉庭地区関係者 10名中7名 回収率 70%

各アンケートの集計については次のとおり

質問 1. 今回のモニターツアーで印象に残ったこととその理由

	印象に残ったこと	その理由
民泊	斎藤家に民泊、多くの食材をご夫婦で作られ、それをごちそうになったこと	仲の良いご夫婦のおもてなしをうけた 家は人が集まりやすいようにリフォームされており、斎藤家の方の新しい人をすぐ受入れる広い心に感銘をうけた
	農家に宿泊	都会とは違う斎藤さん宅の営みに地産地消のお手本をみた 地元の美味しい食べ物をたくさん豊富に味わうことが出来て感動した。食材をととても丁寧に大切に使用していたことが心に残った
	農家のお宅に宿泊する	家族のみなさんと家の歴史(玉庭)や川西の農産物などの話が聞けてこの場所に住んでいる人の心に触れられたこと
	地元農家宿泊	地域の歴史、日常生活などを知る上で貴重な機会となった
	民泊した家の人たちとの交流	民泊を初めて受け入れるということだったが、手厚い心配りはもちろんですが、ご家族それぞれの人柄が、直に伝わってきて、人の繋がりでの温かさを味わうことが出来た 旅に出たときに結局心に残るのは人との交流の思い出であることが多かったことを今更ながら思い出した
交流会	・玉庭地区の方々との交流 ・イワナの塩焼き ・つや姫・こしひかりのおむすび ・もつてのほか、ぜんまい煮、	玉庭地区の方々の人柄から玉庭地区の良さがうかがえた(他人を受け入れて気軽に集まれる) 新米の美味しいおむすびの食べ比べができた 地元食材を使った料理から素材の良さを感じた
	玉庭地区での夕食兼交流会	玉庭の方々との話を通して小松に何度も通っていたが、その時には見えなかった暮らし方や農業への思いが伝わってきた 町長さんの様々な取り組みに川西町の勢いを感じた
	地元の人たちとの交流会	生活者大学の交流会は地方から集まってきた人との懇親会で興味深いものがあったが、時間も少なく、話が弾む場面も少なかったが、玉庭地区での交流会はヒザを突き合わせて会話が弾んだ
	交流会(玉庭地区)	オールスターズでの歓迎をうけたという印象 また、この企画の将来にかける意気込みも感じた
体験プログラム	大根、カブ、ヤーコンの収穫体験、雪囲い体験 玉庭マップでの玉庭散策(瑞光寺・長沼家) むくり鮎の加工現場見学	収穫は楽しいものであった。400年の下史のある寺をうかがった長沼さん宅は牛を2頭程飼っていて小規模農家と思った むくり鮎は、良い味でした

大根、カブ、ヤーコンの収穫体験 農作業(大根ほりなど)	普段食べている大根がこんな形で畑で育っているのかと思うと楽しくなってきた 初めてヤーコンを食べてイモ類であることに実感がもてました。農家の育てて食べることの喜びを感じられた(いつも当たり前のように無感覚でこなしていただけ)
そば打ち	自分で打って食べることが出来て、次回自分でも作ってみようと思った
大根収穫などの農業体験、そば打ち体験	興味があっても普段の生活ではなかなか体験できないもので面白かった
そば打ち体験	個人的な興味関心も高く、最も印象に残ったことの一つである。また、むくり鮎の味にも感動した。調理していた女性たちもいきいきして6次産業化のすそ野の広がり大きさを感じた

質問 2. 都市部の企業・団体等が川西町のような農山漁村で研修等を行い、自然・農産漁村生活体験や地域の人たちとの交流経験を行うことについての意見

①とても良いことなので積極的に進めるべきだ 4人

②良いことなのでそういう機会が増えるとよい 1人

(主な意見) とても良いことなので積極的に進めるべきだ

- ・ 都会では情報に振り回され人間としての営みをコントロールできない人が増えている。人は助け合って生産し、工夫して食べて(出来るなら芸能などもあればよい)この交流経験によって「生活の基本」を感じて今の生活を振り返ってみることが必要だと感じた為。
- ・ 都市部では今の仕事に充実感がなく、お金や生活の為に働いている人もいる。そういった生活と川西町の生活の違いで新たな自分を見出せると思う。
- ・ 日本人の生活能力が昔(昭和)と比較すると非常に低下していると感じられる。農村の生活はそういう失われた生活能力を今も残している。そういう能力を、交流を通して見直すチャンスだと思った。
- ・ 「企業活動の最終的な目的が営利に終わらないように」という思いの具材的なプレゼンテーションとして人が生き、繋がって生活を営む社会(共同体が成立しているという意味の農山漁村)での体験は意義深いと思う。

(主な意見) 良いことなので、そういった機会が増えると良い

- ・ 都市の人と玉庭の方の交流の場や体験の場を増やし、若い人に農村の良さを伝承していく。

質問 3. 都市部の企業・団体が組織ぐるみで農産漁村体験・地域との交流や、グリーン・ツーリズムを行うことの効果や良い点・意義・についての考えや意見

考え方・意見
・ 3泊4日ぐらいの休日を利用して地域の方々ともっと深い交流に繋がるようなツアーを、回数を重ねて実施していくのが良いと思った。
・ グリーン・ツーリズムも一長一短だと思う。どんな人が、どういう目的で、どこの地域に行くかによると思う。川西町は農村としての魅力がすごい。コンビニ、大企業の侵入もなく、日本本来の原風景が根付いている場所だと感じた。
・ 交流を通して毎年一回でもいいので、もう一度グリーン・ツーリズムを行いたいということになれば。そして、そういう企業団体が少しでも増えていけば、経済的にも文化的にも意義があることになると思う。
・ 都市部の企業の業務はマニュアル化が進み効率の良さが追求され、人間同士のコミュニケーション世代を超えた交流などがなくなっていると思われる。そういう点を農山村体験で見直すことになれば意義あると思う。



質問 4. 都市部の企業・団体が「農都交流」を行う上での課題と、交流を促すための方法やアイデア

◆課題

- ・ 農都交流事業の意義を企業側がどのようにとらえるか。相互の意義や目的が異なってもかわないし、たぶん違うだろうと予想されるがいわゆるWIN-WINの関係をどのように位置づけていくことが最大の課題であり醍醐味であるように思える。
- ・ [までい]な生活を継続か復活か望む声を広める
- ・ 交流の方法アイデアについてこういった課題などについて交流し合える場があれば良い
- ・ 農村部が豊かでなくて都市部が豊かになるはずがない。までいな生活が都市でもできるような支援についても学びたい。その為にも交流は必要である。アイデアはすぐには浮かばない、今後の私の課題でもある。心のこもった対応ありがとうございました
- ・ どこの地域にも冬は雪が多いとか車がないと生活できないとかマイナス面がありますそのマイナス面をどうプラスにするか
- ・ 一般的な経営に余裕がある企業は少なく、なかなか業績アップに直結しない企業に時間と資金を出してくれることは難しいと思われる

◆交流を促すための提案やアイデア

- ・ 都市では若者は仕事がある無しに関わらずストレスの多い日常を過ごしています。ニュースでは事故が多いと報道され、こういった環境の中で育つ若者に同じ環境でこれから育つ子供たちをどう思うか農村での暮らし体験から考えてもらう
- ・ 実際にいいところもマイナス面も含め体験してもらいその感想を踏まえてその町に足りないものまたは、活かせることを提供していく
- ・ 企業・団体に呼びかけることも大切だろうが、関心を持ってくれる一般の市民に幅広く呼び掛けることも重要だと思う
- ・ 農村部が豊かでなくて都市部が豊かにはならない
- ・ までいな生活ができるような支援について学べる場や交流も必要であると思う

質問 5. 企業・団体等が川西町のような農山村地域で適する活動についての考えや意見

適する活動等	内容・理由
音楽を通しての交流	東京でライブ活動をしているバンドなどのリハーサル室と宿泊施設の提供と地元のバンドなどのライブ芋煮会？(発表会？)
真冬積雪2mの雪を体験 屋根の雪下ろし、除雪車の体験	積雪2mにもなる雪に興奮する人は多いのではないかと想像。除雪車の運転などでできれば貴重でしょう。その後に熱燗で交流会
「正しい芋煮会をマスターするツアー」	薪を割って釜戸でご飯を炊かなければ食べられないサバイバルツアー、不便さには魅力がある
農作業の収穫体験	収穫物をその場で調理して食す 畑に植えてある自然薯(長芋)を傷つけずに折らずに掘り出すコンクール
テレビや映画などのロケーション、コーディネート	山形県出身者を中心とした監督やプロデューサーを集めて川西町で撮影できる提案をしてもらう
川西町の情報発信援助	私企業が直接自治体のPR活動に協力しにくい、川西町にあるNPO法人とは連携して活動できそう
芋煮会体験	奏山村の資源を活かして川原で芋煮会を行う 芋の収穫、火を起こす薪、全てグループで準備し協力し、調理を行う。 芋煮をグループごとに川原で作る 芋の収穫、火起こし等の準備など全て協力し、芋煮を作る。教えるのは地域の方々と交流しながら食事まで行う。

## 【その他参加者からの意見】

### ◆印象に残ったこと

- ・ 玉庭地区の方々の一生懸命な気持ち
- ・ なんとかしたいという思いが直に伝わってきた
- ・ 朝、霧の中を移動したといは一種の幻想的なあじわいだった
- ・ 耕地が多く、山林も近接し以外にもなだらかで豊かな土地だと思った
- ・ 水田が多く、水も豊かで、耕作放棄地が少ない
- ・ 歴史的、民族的な文化資源
- ・ 冬の豪雪と牛飼いを念頭に置いた伝統的農家の造り
- ・ 調理場にお邪魔した時のおばあちゃんたちの楽しそうで元気な様子を見ただけで
- ・ この試みは成功瀬ではないか
- ・ 玉庭地区の伝統的なおせち料理をつくってみる

### ◆何ができるか考えてみたこと

- ・ 真冬、積雪2m近くなったときの玉庭を体験してみたい
- ・ 雪下ろし作業や、除雪車の運転も貴重な体験になる。そのあとに飲む熱燗、五臓六腑にしみわたる
- ・ 現代社会でとっておきの異文化体験は不便を味わうことではないかという持論がある。不便さには魅力がある。おじいちゃんおばあちゃんの世代がもつ文化は十分に異文化である
- ・ 農作物の収穫体験は調理して食すところまでセットとしたい
- ・ 畑で長芋堀コンクールなど(傷つけずに、折らずに掘る)

### ◆予想される課題（懸念されること）

- ①過剰サービス(都会への迎合)
  - ・ ありのままの異文化交流
- ②対等でない関係
  - ・ 双方に得られるものがあって成り立つ関係でなければならない
  - ・ お金に換算できないようなものを交換したときの満足度は大きい
  - ・ 対等な関係で価値の交換が行われなければならない

### ◆戸惑ったこと

- ・ 都市部とか学生の団体を受入れるという着想がなじみにくかった

#### ④ツアーを受け入れた地域（玉庭地区）住民へのアンケート調査結果（回答者 6 人）

##### 質問 1. 今回のモニターツアーへの協力・関与状況

回答者	モニターツアーへの協力・関与内容
地区交流センター事務局長	・ 交流会に参加、受入れについての会議に入った。
農業、地区施設副館長	・ 農作業は牛を飼っているので糞の始末の方法を指導した。 ・ 食事はアレルギーの方がいるということで、山菜や、山形の芋煮、おみ漬けなど肉を入れない山中の料理をごちそうした。
自営業、交流センター関係者	・ 交流会の計画、農作業の準備及び会場までの案内
団体職員、民泊受入	・ 18日(日)農作業の指導、17日(土)交流会での面談
地区施設振興部会長	・ 朝食の提供
農業、民泊受入	・ 打合せ会議や交流会に参加した。

##### 質問 2. モニターツアーで他地域の人を受け入れた感想

###### ①事前準備についての感想

- ・ 大変だった 1人
- ・ それほど大変ではなかった 4人
- ・ なんとも言えない 1人

###### ②実際の受け入れ時の感想

- ・ それほど大変ではなかった 5人 ※無回答 1人

###### ③交流会の感想

- ・ とても楽しかった 2人
- ・ まあ楽しかった 3人
- ・ なんとも言えない 1人

###### ④今後の受入活動への参加意向

- ・ ぜひ参加したい 2人
- ・ 参加してもよい 4人

###### ⑤モニターツアーの受入で印象に残っている点や楽しかったこと

- ・ お正月行事、お盆の行事などについていろいろお話を聞いて、私達と少し違ったこともいろいろあったこと。17日の夜は12時までお話し、雪が家の前にあったのでびっくりだった。
- ・ 今回参加された方は、生活者大学校を通じて川西町に何度も来ている方が多く、いろんな面で川西町を知っている方であり、話が合ったように思う。また、交流会に町長も参加していただき大変有意義な交流会になったと思うが、秋祭り反省会と合わせての会となったため、地域の方々がどう思われたかについても検討する必要があると考える。
- ・ モニターになって参加している方は、理解者である。初心者ではない。本音が聞けないと感じた。（何回も生活者大学校の生徒さんとして来町している方々でしたから特に）
- ・ 初対面とは思えないほど、それぞれがうちとける事が出来たのはとても良かったと思う。合同で、夕食兼交流会を行えば宿泊受入れ者の負担も減るし、より多くの方と親交を深める事ができるので、今後進めて行く上でも望ましい形なのではないかと感じた。
- ・ 食事の提供は朝食だけだったので負担が少なかった。しかし、滞在時間が短かった為なんとも言えない。

###### ⑥川西町（置賜地域）が都会の企業などと交流・連携をすすめるための「課題」や「問題」

- ・ 受入れの民宿の確保がなく「まどか」での宿泊となれば体験の意味がうすれるのではないかと。
- ・ 1. 来町する方が何を求めているかを把握する。
- ・ 2. 受け入れる私たちも無理のかからない程度で取り組む為の体制作り
- ・ 3. 一度だけの交流でなく、長いスパンで何回も来ていただくための対策を考える

- ・ 一時的な参加者でも良いから、会話する時間をかけ、聞き取りしていけば「課題、問題」が感じ取れると思う。1泊2日の日程に無理があったと思う。
- ・ 交流会や、農作業の時間が少ないので半日ぐらい時間が欲しかった。
- ・ 受入れ側が負担にならない仕組みづくりは必要だと思う。
- ・ 目的がはっきりしないと難しい。

質問 3. 都会の企業や大学が川西町（置賜地域）のような農山村を訪れて交流することに対する考え方

①とても良いことなので積極的に進めるべきだ 3人

②良いことなのでそういう機会が増えるとよい 3人

(主な意見)

- ・ 地域の活性化を図る一つの方法だと思います。また、多くの人に内容を理解されるようにしていかなければならないと思う。
- ・ 空気も良いし自然の山々、食べ物も良い所ですから都会の方々や多くの人に来て住んでもらいたい。
- ・ 都会から来町される方のニーズが現実はこの地で生活している私達の状況を体験する中で、その方自信にとって一つの生き方の選択のきっかけとなれば良いのではないかと考えている。
- ・ 都会で行っても行かなくても良いという方々を地方に招く事を真剣に考えていくことが大切。
- ・ 人口減少、少子高齢化などで年々地区に活気がなくなっていく中で、都会の方達との交流はこの土地での暮らしそのものを地区の人たちが見直し、誇りに思うきっかけとなり、そのことが地区を活性化していく原動力になると思うので。
- ・ 交流は大変良いが家族が忙しくなり、負担になる。

質問 4. 都市部の企業等との交流活動の良い点、悪い点

<p>良い点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な出会いと交流で地区に活気がうまれる。農村や地元の実状を知り、考えてもらえるきっかけになる。交流する事でそれぞれが抱えている問題や欠けている所を補うことが出来る</li> <li>・ 初めてなのでよくわからない</li> <li>・ 山形の不便さをしてもらい参加される方々の本音をお聞きできれば田舎の提供すべきものが判明すると思います。</li> <li>・ 都会に住んでいる方から見た川西町の良さを知ることができる</li> <li>・ 交流を通して農村の暮らしを理解していただける</li> <li>・ 農作業を手伝ってもらえれば大変良い。</li> </ul>
<p>悪い点 (改善点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流の仕方やプログラムによっては、お互いによくわからないまま、場合によっては悪い印象を持ってしまう可能性があるのではないかと。</li> <li>・ 田舎の良いところを見て頂けているようだが、そのことについて本音が話せていないと感じる。</li> <li>・ 参加する方と十分に交流する時間が持てないように思う。受入れ側に十分に理解していただくには会を重ねた交流が必要である。</li> <li>・ 雪国なので半年間何も仕事ができないから生活が大変だと思う。</li> </ul>

●自由回答

＜モニター参加者から＞

- ・ より良い交流につなげていくためには、交流に仕方やお互いの目的をしっかりと理解し実施していく必要がある。しかし、受け入れる側の負担を考慮したうえで体制づくりをしていくことが必要（もてなしすぎない）
- ・ 参加の方がもう一度玉庭地区に来たいと思うようなツアーであること
- ・ 雪や不便さといったマイナスな印象を、どのようにプラス活用していくかが重要
- ・ 今回の参加者の方々のアイデアをどのように生かすかが検討してほしい（音楽の交流、真冬の積雪2m、地域住民との芋煮会、テレビや映画などのロケーションへの活用）

＜受入側から＞

- ・ 受入までの準備を含むモニターツアー全体を通し概ね良い受入れであったと評価できるので、次回の実施も検討していく
- ・ 参加者の方が川西町や農村に理解のある方が多かったため、密度の濃い話ができているようだった。
- ・ 今後農都交流事業を推進するにあたり、目的や方向性をきちんと定めていく必要がある。
- ・ 今回の受入れは滞在時間が短く十分な内容を提供できとは言えないため、次回開催時はもっと滞在時間をのばす必要がある。ただし、受入側の過度の負担とならないことが重要。
- ・ 玉庭地区の自然、食べ物、農業が都会との交流資源として活用し、地域の活性化につなげていく活動としていきたい。
- ・ 交流することによりお互いが抱える問題の解決や農村の現状を考えてもらうきっかけづくりとしても進めていく必要がある。
- ・ 交流やプログラムの内容によっては悪い印象を与えてしまうことも感られるので十分な検討を行う必要がある。

## ⑤ ツアー関連資料

### 1) 参加者への案内状

#### 川西町農都交流事業

#### ○「川西町の暮らし体験」モニターツアー参加要項

都市と農村を交流によりつなげる農都交流事業の一環として「川西町の暮らし体験」モニターツアーを実施します。町内の資源を活用した都市部住民との交流イベント参加のほか、農家に民泊し地域の方とのふれあいの中で暮らし、食、文化を体感していただくモニターツアーです。

◇実施日：平成25年11月16日～17日 2泊3日

◇参加要件：①「川西町の暮らし体験」モニターツアー2泊3日の全行程に参加していただける方  
②モニターツアーの内容についてアンケート等にご協力いただける方

◇行程：1日目（11月16日）

川西町到着後、生活者大学校講座、生活者大学校交流会、ホテル宿泊

2日目（11月17日）

生活者大学校講座、玉庭地区へ移動し地元住民と交流会、農家民泊

3日目（11月18日）

体験プログラムのモニター、アンケート回答、東京へ出発

※詳しい行程内容については別添のスケジュールをご確認ください

◇定員：10名

◇参加費用：○モニターツアーで無料となるもの

①東京・川西間の新幹線および在来線のチケット代購入にかかった実費

※金額については上限25,000円まで負担いたします。

※3日目アンケート回収時にかかった実費をお渡しさせていただきますので、チケット等については、自己負担で事前にご購入ください。（領収証を持参願います）

②2～3日目のモニターツアー経費

（11/17～18日 宿泊代、夕・朝・昼食代、体験料、保険料等含む）

○モニターツアーで有料となるもの

①生活者大学校参加費用 19,000円

（11/16～17日 受講費、交流会費、宿泊代、朝食・昼食等含む）

申し込み：第26回遅筆堂文庫・生活者大学校にて申し込み後（申込書同封）、電話または裏面申込書をFAXまたはメールにてお送りください。

すでに生活者大学校に申し込み済でも参加できますのでぜひご連絡ください。

締切日：平成25年10月31日（木）

## 2) 詳細行程表

日次	月日(曜)	地名	時間	交通機関	スケジュール
一 日 目	2013年 11月16日 (土曜日)	東京発 羽前小松駅着 (米沢経由)  川西町農村環 境改善センター (川西町上小松)	午前 午後      夜	新幹線 在来線      送迎車	<p>◇羽前小松駅にて地域住民のお出迎え後、会場まで移動(徒歩)</p> <p>— モニターツアー 1日目 —</p> <p>◇地域資源を活用した都市と農村の交流イベントに参加</p> <p>○第26回遅筆堂文庫・生活者大学校 1日目講座 劇作家井上ひさし氏(故)を校長とし、生活者の視点から自らの生活を見直そうと毎年1回、井上ひさし氏生誕の地川西町で開催されており、毎年町外から多数の方が来町しています。</p> <p>今年度のテーマ 「3.11後の福島から地域再生への道程を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活者大学校講座 千葉悦子(福島大学教授)</li> <li>山下祐介(首都大学東京准教授)</li> </ul> <p>○第26回遅筆堂文庫・生活者大学校 交流会 地元酒蔵から提供されたお酒や、かわにしツアーリズムのお母さん方が地元で伝わる郷土料理を提供のほか、地域住民や参加者同士が交流を図ります。</p> <p>◇宿泊 川西町、飯豊町、長井市に分泊する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浴浴センター「まどか」(川西町)</li> <li>白川荘(飯豊町)</li> <li>タスパークホテル(長井市)</li> </ul>
二 日 目	2013年 11月17日 (日曜日)	宿泊先 (川西・飯豊・長井)  川西町農村環 境改善センター (川西町上小松)      浴浴センターまどか (川西町上小松)  玉庭地区	午前        午後    夕刻  夜	送迎車          送迎車      送迎車	<p>◇宿泊先で朝食後</p> <p>— モニターツアー 2日目 —</p> <p>◇地域資源を活用した都市と農村の交流イベントに参加</p> <p>○第26回遅筆堂文庫・生活者大学校 2日目講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活者大学校講座 山下惣一(農業・作家)</li> </ul> <p>○昼食およびオプション講座 (昼食) 川西町の食材を活用した弁当(ひょうたん弁当)の提供 地元農業高校生または地域住民による料理提供 (オプション講座) 地元農業高校生による活動紹介(農業、町づくりなど)や 川西町の食材を活用した商品の試食や販売</p> <p>○第26回遅筆堂文庫・生活者大学校 全体会 今年度のテーマについて、参加者全員で討議を行う。</p> <p>◇浴浴センターまどかで入浴</p> <p>◇地元住民(玉庭地区住民、町職員、生活者大学校関係者)をまじえた夕食兼交流会</p> <p>会場：玉庭地区交流センター 四方山館 内容：新米のおにぎりや地元食材を活用した料理の提供 地元住民との交流(内容については予定)</p> <p>◇川西町玉庭地区の農家に宿泊 川西町の農家に宿泊し、相互の交流を深めていただきながら農家の暮らしを体験</p>

三 日 目	2013年 11月18日 (月曜日)	玉庭地区 (川西町)	午 前	送 迎 車 在 来 線 新 幹 線	◇宿泊先で朝食  — モニターツアー 3日目 — ◇体験プログラムのモニター体験 川西町玉庭地区の地域資源を活用した体験プログラムを実施 ・茅(かや)の収穫 ・野菜の収穫 ・雪囲い など
		玉庭地区出発 羽前小松駅発 (米沢経由) 東 京 着	午 後		◇昼食 そば打ち体験や郷土料理づくり。 地元住民と交流しながら自分たちが調理したそばや料理を食べる。 ◇モニターアンケートの実施 2泊3日のモニターツアーの内容についてアンケートに回答いただきます。 ◇羽前小松駅着 ◇地元住民のお見送り



### (3) 千葉県館山市でのモニターツアーの実施

#### ① ツアーの実施概要

(実施概要)

平成26年1月20日(月)～22日(水) 2泊3日

(参加者)

男性4人 女性1人 (計5人)

性別	居住地 (会社所在地)	職業
①男性・30代	東京	会社員(人材関連企業)
②女性・20代	千葉県千葉市	会社員(人材育成部)
③男性・30代	神奈川県	会社員(館山に自社工場あり)
④男性・30代	千葉県千葉市	会社員(研修担当)
⑤男性・40代	東京	会社員

(日程)

1月20日(1日目)	<ul style="list-style-type: none"><li>・移動(集合)</li><li>・入村式</li><li>・フィールドワーク</li><li>・地元農家に宿泊(民泊)</li></ul>
1月21日(2日目)	<ul style="list-style-type: none"><li>・農作業</li><li>・太巻き寿司づくり</li><li>・夕食交流会に参加</li><li>・ペンションに宿泊</li></ul>
1月22日(3日目)	<ul style="list-style-type: none"><li>・市内案内</li><li>・昼食意見交換会</li><li>・移動(帰路)</li></ul>



## ②ツアーの行程

### 第1日目（1月20日(月)）

#### ◆集合（11：00） JR 館山駅

- ・送迎車で「たてやま夕日海岸ホテル」（入村式会場）へ移動。

#### ◆入村式（11：30）

- ・歓迎の挨拶のあと、参加者の自己紹介。その後館山の概要紹介やツアーの予定等をオリエンテーションした。

#### ◆昼食（12：00）

- ・郷土食である「さんが焼ご膳」を味わう。



#### ◆フィールドワーク（14：00～16：00）

- ・市内の農村集落等を散策しながら、地元住民のガイドから館山の歴史や風土、産業や特色等を学ぶ。

#### ◆宿泊先である館野地区の農家に移動（17：00）

- ・宿泊先となる農家に移動。一緒に夕食を準備（郷土食づくりの手伝い）し、夕食を共にしながら、地域や生活（ライフスタイル）、農業の話などを聞く。



## 第2日目（1月21日(火)）

### ◆朝食

- ・ 宿泊先の農家で朝食づくりの手伝いをして一緒に朝食。（地域の常食を知る）

### ◆農作業体験（午前）

- ・ 宿泊先の農家で指導を受けながら農作業体験を行う。  
（ソラマメへの肥料やりトラクターでの耕運等）

### ◆昼食（12：00）

- ・ 館野地区の山本青年館にて、「さんがそばろ井」等地元食材を使用した料理を味わう



### ◆農作業体験（午後）

- ・ 農家に戻り、引き続き指導を受けながら農作業体験を行う。  
（精米体験など）

### ◆太巻き寿司づくり体験（16：00）

- ・ 宿泊先となるペンションに移動。
- ・ 地元の皆さんから指導を受けながら、房総の郷土料理である「太巻き寿司づくり」を体験

### ◆夕食交流会（18：00）

- ・ 地元の皆さん（農家、地元関係者）を交えて夕食交流会 を行う。みんなで作った太巻き寿司も登場。
- ・ 館山の暮らしや伝統、農山村の魅力や厳しさなどを語り合う

### ◆宿泊

- ・ 交流会会場のペンションに宿泊



### 第3日目（1月22日(水)）

#### ◆朝食

- ・ペンションで朝食。

#### ◆市内見学（各種施設の紹介）

- ・地元ガイドと一緒に、市内の公共施設や体験施設を視察。研修、宿泊、食事、農業関連、漁業関連施設など、農都交流活動に利用できる施設を知る。

#### ◆昼食（12：00）

- ・休暇村館山にて昼食。メニューは館山ご当地グルメの「たてやま炙り丼」

#### ◆意見交換会（12：30）

- ・関係者や行政職員などを交えて今回のモニターツアーを振り返り意見交換。農都交流の魅力や可能性や要望などを話し合う。
- ・合わせてモニターツアー参加者にアンケートを実施。

#### ◆解散（14：00～）

- ・JR館山駅で解散。

### ③ ツアー参加者へのアンケート調査結果（回答者5人）

質問 1. 今回のモニターツアーで印象に残ったこととその理由

印象に残ったこと	その理由
高山様宅への宿泊	農家の人の生活を体験に来て大変楽しい時間を過ごせた
農業体験	トラクター等に乗って畑を耕したりして、とても勉強になった。農かの人たちと話をすることができて楽しかった。
ペンションキャッチボールでの交流会	若い農家の人たちと意見交換ができてよかった。また、参加者たちの交流もできたのがよかった。
ソラマメ畑での肥料を撒いたり、草取りをしたこと	最初はとまどい退屈を感じたが、やっているうちに花がさき、実がなる様子を思い、5/10にはソラマメを摘み取るイベントがあるので、来てみることにした。これからも時々鈴木さんのところへ行ってみたいと思うようになった。
農家民泊	集団で生活をしてコミュニケーションが図れた。
農作業	農業の大変さ食の大切さを感じ取れた。
夕食交流会	地元農家さんと対面でゆっくりと話げできた。
農家民宿での宿泊	現地の方々との会話、触れ合い、現状把握、人の温かさ、これからのビジョン、地域の在り方を学ぶ。
朝(散歩)	風や雰囲気を感じ。本当は、夜の散歩(星空体験)とかも入れたら…
農業体験(トラクター運転、肥料植え)	都会ではできない学びがある。どうやって、食物ができるのか座学ではない学び。

質問 2. 都市部の企業・団体等が農山漁村で研修等を行い、自然・農産漁村生活体験や地域の人たちとの交流経験を行うことについての意見

①とても良いことなので積極的に進めるべきだ 4人

②良いことなのでそういう機会が増えるとよい 1人

(主な意見) とても良いことなので積極的に進めるべきだ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからさらに高齢化が続く日本で1次産業への考え方見直し</li> <li>・ TPPに対する日本の食ブランドへのかかわり</li> <li>・ 震災等、災害時の食料自給への考え方</li> <li>・ コミュニケーション力の醸成</li> <li>・ 農業体験は貴重な経験になり食の大事さを感じ取れ、コミュニケーションが図れた。</li> <li>・ 原点回帰、視野視座の拡大</li> <li>・ CSV活動の重要性</li> <li>・ 都市部の人たちは農村部にくることによって新しい発見ができると思う。</li> <li>・ 企業の人たちにもっと来てもらえるようにしたい</li> </ul>
---

質問 3. 都市部の企業・団体が組織ぐるみで農産漁村体験・地域との交流や、グリーン・ツーリズムを行うことの効果や良い点・意義・についての考えや意見

考え方・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の生活でのストレスやコミュニケーション能力などをフルに使えるのが農山漁村体験だと思う。</li> <li>・ 企業での仕事では得られない能力も築けるかと思う。</li> <li>・ B2Cだけでは、消費者を動かすにはハードルがある。</li> <li>・ 最終的には個人が大きく動きムーブメントを作るための初動きっかけづくりとして、まずは企業組織での活動が重要。</li> <li>・ 効果としてはコミュニケーション能力の向上、職業観の考察ができる。人生観の幅が広がる。</li> </ul>

質問 4. 都市部の企業・団体が「農都交流」を行う上での課題と、交流を促すための方法やアイデア

◆課題

- ・ 企業の研修を対象として考える場合、建物、道路、食べ物などがおいしいなどのハードウェアの他に、ソフトウェアの開発(研修プログラム)整備があつてよいと思う。
- ・ ①時間、②金、③手間、④効果、⑤定期的なディスカッション(地域ごとに課題が異なるため)(時とともに変化するため)
- ・ 農都交流を研修として行う際の趣旨を明確に参加者に伝え、行動に促すこと
- ・ 農都交流の趣旨、理念はほとんど、企業担当者が賛同。最後にいわれるのが「実績は?」「費用効果は?」
- ・ 企業等にどう知ってもらいたいかが大切。農都交流という言葉をもっと広める。

◆交流を促すための提案やアイデア

- ・ 教育心理学に対する知識経験のある人、スタッフが農業体験プログラムに、たとえば認知行動療法、あるいはエンカウンター等の手法を加えて提供する。これらの手法を取り入れると研修期間は少なくとも2~3日の期間が必要となるが確実な実績をあげることができ、リピーターを確実にえることができると思う。そのように思う理由としては、認知行動療法、エンカウンターにはすでに効果ができるといふ科学的な統計がすでに取れています。 ※エンカウンター→集団感受性訓練
- ・ ①研修年間プログラムへ組み込んで担当者への無料モニター。②モニターは無料、初年度は確認で実施。③農家とつなぐハブ機能を地元で観光会社やJTBが担う。④理解、コミュニケーション力、メンタル力、日本社会への理解へ繋げる。
- ・ 研修前に説明会を開催し(可能であれば)、企業側の趣旨を説明していただき、グループディスカッション等をして参加者のやる気を促す。
- ・ まずは象徴的な3つくらいの実例づくりが最優先。(モニターの)「どういう目的で」、「どういうプロセスで」、「どうやって」、「どうなったか」をリアルに目に見える形にすることが最大の材料となると考える。
- ・ TVやメディアを使って、もっと知ってもらえればと思う。企業に売る込にいければよいと思う。

質問 5. 企業・団体等が農山村地域で適する活動についての考えや意見

適する活動等	内容・理由
コミュニケーション力アップ	普通のコミュニケーション研修とは違う実際の農村の人たちを相手に話すことができるので、わすれることができない研修になると思う。
新入社員研修	入社して間もない人たちに農業を体験してもらい、チーム力、コミュニケーション力を身に付けてもらえると思う。
オフサイトミーティング(戦略キャンプ)	部署、世代を超えた横断的なメンバーで未来のあるべき姿を考える。その際に職業、年齢、価値観の異なる方々との交流が大きなヒントに。
チームビルディング	段取り力、タイムマネジメント、目に見える成果→達成感、チームワーク、絆醸成
労働組合行事	家族の絆再確認→仕事の原動力、離職、年齢、組織へのロイヤリティ向上
農家の販路拡大活動	農協さんだけでなく、インターネット等、道の駅都市部アピール
休耕地の利用	個人、法人に休耕地を貸し出し
次の世代に農業をつなげる	農業を教える場を作り、都市部から人材を入れる。
企業研修(人材育成)	チーム力向上、社会の理解力向上、ボランティア精神
被災地支援活動の一環	CSR 限界集落等日本の将来への理解力
防災的パートナー醸成	自給自足精神 国民的協力体制

#### ④ ツアーを受け入れた住民へのアンケート調査結果(回答者6人)

質問 1. 今回のモニターツアーへの協力・関与状況

モニターツアーへの協力・関与内容
・進行の補助、全行程の参加、企画・集客・営業
・地域の歴史文化ガイド
・体験交流協会としこの農都交流プロジェクトにスタッフとして参加。 (交流会の食事等の提供、宿泊所として、ペンションキャッチボール施設提供等)
・農作業の指導
・宿泊、食事等の提供、農作業の指導
・企画の手伝い、資料作成(農業分布マップ、太巻きレシピ、ガイドマップ等)

質問 2. モニターツアーで他地域の人を受け入れた感想

①事前準備についての感想

- ・大変だった 1人
- ・それほど大変ではなかった 2人
- ・なんとも言えない 3人

②実際の受け入れ時の感想

- ・大変だった 2人
- ・それほど大変ではなかった 2人
- ・なんとも言えない 2人

③交流会の感想

- ・とても楽しかった 3人
- ・まあ楽しかった 2人
- ・なんとも言えない 1人

④今後の受入活動への参加意向

- ・ぜひ参加したい 3人
- ・参加してもよい 2人
- ・なんとも言えない 1人

⑤モニターツアーの受入で印象に残っている点や楽しかったこと

- ・農家さんの夕食・・・地域の人との交流、地域ならではの食事
- ・地元のお母さんの昼食・・・集会所を使った食事会、地元のお母さんの手料理
- ・農業体験(昔ながらの道具を使った体験)
- ・企業の方との交流は初めてでしたが楽しかった。ぜひこれからも希望したい。
- ・農作業の大変さが理解できた。
- ・緊張感がよかった。
- ・今後の大切と感じている。まだスタートということではなく、どのようにしてスタート準備をしていくか、もっと具体的な情報提供を出し合い、館山スタイルで今何をすべきか、どのようにしてプログラムを開発していくかを打ち合わせし、仲間に呼掛け、みんなでベストなスタイルを開発し、企業側の意見を聞き、型にはめず、つくりあげていきたい。なにはともあれ、動き出すことが重要と考える
- ・未知のエリア、産業が多く、PRに向けて勉強が必要
- ・地元とのたのしい交流の道筋ができた

⑥都会の企業などと交流・連携をすすめるための「課題」や「問題」

- ・農家民宿・・・現状では少ないため
- ・企業側の目的の聞き取り、理解する能力
- ・農家民宿がどれだけできるか
- ・漁を加えたらよいのでは
- ・農家民宿の受け入れ体制の強化が課題
- ・農家民宿のサポートがどれだけできるか
- ・企業にとってのテーマは何か
- ・企業側は何を望んでいるのか
- ・健康維持の予防体験の話がほしいと思います
- ・医療削減につながると感じています
- ・受入側としては、まだまだ情報が少なすぎるので地域の交流をしながら模索し動き出しが重要
- ・対企業側に意見を聞くことが重要で、その意見に則したスタイルを作りあげること。課題、問題点を集め、交流していくなかで、早めに実行してきた。
- ・受入側の増強→人材育成、人数、意識、知識、経験、システム
- ・安全安心情報の発信

質問 3. 都会の企業や大学が川西町（置賜地域）のような農山村を訪れて交流することに対する考え方

①とても良いことなので積極的に進めるべきだ 5人

(主な意見)

- ・地域の活性化
- ・館山ファンの育成→個人旅行、リピーターへ
- ・ターゲットをしばり、目的等を目標に情報を聞き出し、地域の交流を進めていきたい
- ・人的交流が増えるとともに館山の認知度を常に向上させられる
- ・館山には歴史・文化・自然・食材、よそに負けないものがたくさんある。ぜひ、活かして元気な館山にしてほしい

質問 4. 都市部の企業等との交流活動の良い点、悪い点

良い点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手農業者の理解</li> <li>・地元が元気になる</li> <li>・経済向上によい</li> <li>・農家にやる気が出る</li> <li>・地元PR、人的交流</li> <li>・農作業はとてもよいメニューだったと思う</li> <li>・食事はおもてなしができたと思う</li> <li>・すべて良いことでありました</li> <li>・今後が大切でこの交流を機会に組み立てが重要</li> <li>・地域の活性化、収益の発生</li> </ul>
-----	---



<p><b>悪い点 (改善点)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・課題が何かは交流(話し合い)して、それぞれの思いを聞き出したい。</li><li>・目的がはっきりしない。</li><li>・特になし 事後対応で先に進めるべき。</li><li>・農だけでなく漁が参加するとなおよいと思う。</li><li>・農漁が加わることで館山らしさがでるのではないか。</li><li>・高齢者の積極的な参加が必要。</li></ul>
-----------------------------	---

## ⑤ ツアー関連資料

### 1) 参加者への案内状

**「農都交流プロジェクト2013」**  
**千葉県館山市 農都交流プログラム モニターツアー参加のご案内**

- 実施期間 : 平成26年1月20日(月)～22日(水) 2泊3日
- 集合・解散 : 【集合】 JR館山駅西口 1月20日(月) 午前11時00分  
【解散】 JR館山駅西口 1月22日(水) 午後2時00分  
※別紙案内図を参照
- 行程 : 詳しい行程については、別添スケジュール表をご覧ください。  
1日目(1月20日)  
館山市到着後、農村地域でのフィールドワーク、農家に宿泊  
2日目(1月21日)  
農家で農作業、郷土料理づくり体験、地元農家等との交流会、ペンション宿泊  
3日目(1月22日)  
活用施設の紹介、意見交換、アンケート
- 宿泊先 : 【1日目】  
以下のいずれかの施設にご宿泊いただきます。現地にてご案内します。  
① 農家民宿「ペンションズキアグリ」 館山市山本 1038  
② 米生産農家「高山誠宅」 館山市広瀬 876-1  
【2日目】  
以下の施設にご宿泊いただきます。  
ペンション キャッチ・ボール 館山市洲宮 768-76
- 参加費用 : 無料(交通費(東京駅・千葉駅～館山駅)、宿泊代、食事代、交流会費、体験料)  
※ご参加される方のご出発地～館山駅までの交通費の清算について  
東京駅・千葉駅～館山駅間の高速バス料金相当額を当日現地にてお支払いします。
- 持ち物 : 洗面用具(シャンプー・リンス、歯ブラシなど)、タオル、着替え、寝間着(ジャージなどでOK)、農作業用の服(屋外での農作業用)、帽子、運動靴、防寒具  
※農作業時に必要な長靴・軍手はこちらで用意します。  
※1日目の宿泊施設は農家民泊ですので、洗面用具、タオル、寝間着等のアメニティはございませんので各自ご用意ください。
- 運営体制 : 企画運営 たてやま農都交流推進事務局(館山市経済観光部農水産課内)  
運営協力 JTBコーポレートセールス、館山体験交流協会、また旅倶楽部、館山市
- 緊急時連絡先: たてやま農都交流推進事務局 勢見(セイミ) 090-1660-4213
- 問い合わせ先: たてやま農都交流推進事務局(館山市経済観光部農水産課内) 担当: 勢見・前田  
TEL 0470-22-3396 FAX 0470-23-3115  
E-mail nousuisanka@city.tateyama.chiba.jp